

# 笠岡市新庁舎建設基本構想（案）に係るパブリックコメントの結果と笠岡市の考え方について

募集期間 令和8年1月9日（金）から令和8年1月30日（金）  
 意見提出者 13名  
 意見件数 43件

No.	対象ページ	内 容	ご 意 見	市 の 考 え 方
1	P.1	第1章 新庁舎建設基本構想の位置づけ	原案では「防災拠点としての機能確保」が位置づけられているが、これは立地選定における最低条件であり、これに加えて日常生活の中で「使われる庁舎」であることを評価基準にする必要があります。庁舎は市民がしばしば立ち寄る生活インフラであり、象徴・中心であることよりも、毎日の生活圏との接合性が高い立地にあるべきです。	新庁舎は防災拠点機能を備えるだけでなく、市民に開かれ誰もが使いやすい庁舎となるように検討してまいります。 新庁舎の建設地は、「耐震性の早期確保」、「市民の利便性」、「まちづくりとの整合性」、「災害の危険度」の4つの視点から総合的に判断して、現庁舎周辺が望ましいと考えております。
2	P.1～P.3	第2章 本庁舎の現状と新庁舎建設の必要性	原案が指摘する「耐震性の不足」「バリアフリーや高度情報化への対応」「庁舎の分散化・窓口分散」などの課題に対し、これらは立地と切り離せない問題です。現地から遠い立地に集約しても、日常的な使い勝手が低ければ、結局利用機会の損失や市民サービスの利用頻度低下につながります。庁舎は「使ってこそ行政が価値を発揮する施設」であり、生活動線上に存在することが優先されなければなりません。	現本庁舎には、耐震性の不足、バリアフリーやユニバーサルデザインへの対応、市民サービスの向上に向けた高度情報化の対応、庁舎の狭あい化、分散化、駐車場の確保など様々な課題がありますので、新庁舎建設の基本方針に沿って、新庁舎建設の最適化を図ってまいります。
3	P.3	第2章 本庁舎の現状と新庁舎建設の必要性	南海トラフ地震が発生した場合、具体的な避難所開設場所や仮設住宅の設置場所、戸数をどの程度予測されていますか。	避難所は、笠岡市総合ハザードマップP11-12に記載しています「指定避難所等一覧」のうち、利用可能な災害欄の地震と津波が「○」であり、「地震による被害を受けていない」施設を選定します。発災直後の避難所避難者数は、約12,000人を想定しています。 応急仮設住宅については、災害の状況に応じて設置場所及び戸数など対応をしていきます。
4	P.3	2 新庁舎建設の必要性	災害時は対策本部を置かないといけないので、そういった意味でも是非建て替えは必要。	新庁舎建設の基本方針に沿って、新庁舎建設の最適化を図ってまいります。
5	P.4	(2) 市民に開かれ、誰もが使いやすい庁舎	今、病院でも、寄ってみたいなる施設になってきています。市役所も公的施設ですが、気楽に立ち寄り、用件をすまして安らぐ場所となればと思います。	
6	P.4	(4) 機能性・効率性・経済性に優れた庁舎	市外の高齢者に対しては、新庁舎に出向くことなく、近くの公民館等で手続き可能な書類を増やしていただきたい。	基本方針の一つに、多様化する行政需要に対応するため、最新の情報通信技術を活用して、市民の利便性と職員の業務の効率化を図ることを上げており、今後の基本計画段階で、具体的に検討を進めてまいります。
7	P.4～P.5	第3章 新庁舎建設の基本方針	原案で掲げられている「誰もが使いやすい庁舎」を実現するためには、単に施設内部のユニバーサルデザインやワンストップ化だけでなく、日常生活に近い立地によって来庁者が容易にアクセスできること自体が重要です。庁舎が「生活圏に無い施設」であれば、「使いやすさ」は机上のスローガンに終わってしまいます。	ご提案のことも踏まえて、新庁舎の建設地は、「耐震性の早期確保」、「市民の利便性」、「まちづくりとの整合性」、「災害の危険度」の4つの視点から総合的に判断して、現庁舎周辺が望ましいと考えております。
8	P.4～P.5	第3章 新庁舎建設の基本方針等	1 笠岡市と同じような位置（場所）にあり、人口や世帯数もほぼ同じような自治体の兵庫県赤穂市役所並び香川県さぬき市役所を参考にと 생각합니다。 2 弱者（お年寄り、障害者、子連）の行きやすい、相談しやすい新庁舎にしたいと思います。 3 再生エネルギー活用している建物に 例 壁を薄い太陽光パネル（積水化学工業等） 雨水を再生してWCや洗車や洗い場等の水に 4 屋上の活用を（例 救急ヘリの着地、畑、植物園、子供向けのミニ公園等） 5 まち協を新庁舎へと思います。 6 市長室はガラス張り、1階へとも思います。 7 駐車場は立体式で、1階はお年寄りや障害者や子連れ専用とも思います。 8 細かい事を言えばキリがございませんので、新庁舎募金運動をととも思います。	ご提案いただいた内容は、いずれも新庁舎建設において重要な視点です。新庁舎建設の基本方針に沿って、今後の基本計画段階で、具体的に検討を進めてまいります。
9	P.5	(2) ③協働・交流支援	現在ないものを新設ですか？現在あるものでしたら、どのようなものですか？移動後の空きスペースの活用予定はありますか。	現在はありませんが、今後の基本計画段階で、検討を進めてまいります。
10	P.5	(4) ①集約化	市の人口減少が進んでいく中、新庁舎完成後も空きスペースの発生が予想されます。その場合、どのような対応を考えていますか？食料品店、生活用品店が併設できれば、災害時の救援物資に即利用できるのが助かります。	今後の基本計画段階で、具体的に検討を進めてまいります。
11	P.5	(4) ①集約化	出来れば1か所に集め、駐車場も近くが良い。	新庁舎建設の基本方針に沿って、新庁舎建設の最適化を図ってまいります。
12	P.6～P.17	第4章 新庁舎建設地	①交通の便利な所 ②広い面積（駐車場） ③地盤が良い 適地①案 現笠岡小学校を津波が来ても浸からないように盛り土をして、5階か6階の建物を建てる。笠岡小学校は、適地を探す。 良い点 地盤が山に近いので良いと思う。交通の便良し 問題点 小学校の移転先を探さなければならない。笠岡西中学校と一緒にするとかどうでしょう。 適地②案 古城山を少し掘り下げて適当な高さにして、出入り道を3カ所くらい設ける。(①既設笠岡～番町鉄道横断道路から、②国道の東側から、③国道の西側から) 良い点 津波は大丈夫、地盤も固い、交通の便良し、面積も有る	新庁舎の建設地は、「耐震性の早期確保」、「市民の利便性」、「まちづくりとの整合性」、「災害の危険度」の4つの視点から総合的に判断して、現庁舎周辺が望ましいと考えております。新庁舎建設の基本方針に沿って、新庁舎建設の最適化を図ってまいります。
13	P.6～P.17	第4章 新庁舎建設地	建設場所の再検討が必要だと思います。 「現本庁舎の敷地を含めた周辺地域で市有地を活用できる場所が望ましい」とのことですが、この場所では災害発生時の防災拠点の機能を持たないと思います。 第1章の基本構想の位置づけで「防災拠点としての機能を有する庁舎整備」を進めるとあります。私も早急に防災拠点機能を有する新庁舎の建設が必要だと思います。新庁舎建設にあたっての最重要要件は「防災拠点機能を有する」ことだと思います。 今回計画されている現本庁舎地区は「液状化危険度が極めて高い」地域とのことですが、液状化については地盤改良などの対策で被害を抑えたとありますが、庁舎自体は被害が無くても周辺が液状化で防災拠点へ移動が遮断されることが考えられます。また、海から近いため津波や高潮の被害も考える必要があります。地震震度は林野部より高い想定です。このように安全確保に対してリスクがある地域を建設場所として計画されているのは理解に苦しみます。 「市民の利便性」「まちづくりとの整合性」の視点もあるでしょうが、最優先は防災拠点機能だと思います。防災拠点機能の観点から山陽自動車道笠岡ICを中心としたエリアに新庁舎建設を提案します。この地域に建設し、市民の利便性やまちづくりとの整合性を満す新庁舎建設を望みます。	周辺道路の液状化による移動遮断のご懸念については、緊急輸送道路の確保が重要であると認識しております。現庁舎の周辺地域は緊急輸送道路ネットワークの中心に位置しています。また、国道2号、山陽自動車道、県道笠岡井原線など第1次・第2次緊急輸送道路に囲まれており、これらの道路は災害時の通行確保が最優先される重要路線です。万一、一部の道路が被災した場合でも、複数のルートから庁舎へアクセスできる環境にあります。 津波の危険度は、番町地区から東の区域は高くなっていますが、現庁舎の周辺地域では低くなっています。また、高潮等による浸水発生時においても継続して庁舎が使用できるよう、浸水被害に備えた浸水対策の検討を行います。 山陽自動車道笠岡IC周辺は、緊急輸送道路へのアクセスの観点から優位性がありますが、新庁舎の建設地は、「耐震性の早期確保」、「市民の利便性」、「まちづくりとの整合性」、「災害の危険度」の4つの視点から総合的に判断して、現庁舎周辺が望ましいと考えております。

笠岡市新庁舎建設基本構想（案）に係るパブリックコメントの結果と笠岡市の考え方について

No.	対象ページ	内 容	ご 意 見	市 の 考 え 方
14	P.6～P.17	第4章 新庁舎建設地	<p>1. 市民の利便性と立地評価</p> <p>構想案は、駅前周辺の交通結節性や他官公署への近接性を評価しているように読めますが、それは過去の都市構造を前提とした評価に過ぎません。近年は、自動車利用を前提とした生活様式が定着し、駅前以外にも商業施設、医療機関、住宅地等が分散しているのが実情です。こうした動線変化を踏まえると、日常的な生活圏に近い立地が庁舎の利用頻度向上に直結します。</p> <p>✓商業集積・生活圏の変化</p> <p>富岡・番町周辺は、生活動線として高い価値を持つ地域です。特にハローズ笠岡モールにおける「しまむらグループ3店舗の同時出店」など、生活圏としての集客力の強化が進んでいます。このような地域は、市民が日常の買物やサービス利用の過程で自然と立ち寄る場所であり、庁舎機能との接合は利便性を高めると考えられます。</p> <p>✓道路交通の改善とアクセス</p> <p>浜中バイパス等の道路交通改善により、園井方面や周辺地区から自動車でのアクセスが向上していることも評価すべきです。自動車利用が主体の生活様式に対応し、広域生活圏からのアクセス強化を評価軸に含めることが適切です。</p> <p>✓公共交通ネットワークの再編</p> <p>仮に庁舎が駅前以外に移転した場合でも、循環型バス路線やデマンド交通、港（フェリー）との接続強化などのネットワーク再編を組むことで、駅前機能と新庁舎機能を結ぶ生活動線を構築できます。</p>	
15	P.6～P.17	第4章 新庁舎建設地	<p>2. 笠岡運動公園周辺の立地としての有効性</p> <p>原案では現本庁舎敷地を中心に検討するように示されていますが、笠岡運動公園は立地としての強いポテンシャルを有しています。</p> <p>■豊富な敷地とアクセス</p> <p>笠岡運動公園は、野球場・テニスコート・屋外プール等のスポーツ施設を有し、広大な敷地に複数の機能を収容できます。現状でも野球場横やプール横に駐車場が設けられており、広い参集空間があります。これにより、庁舎来庁者のための十分な駐車場整備や自動車アクセスの利便性を確保することが可能です。</p> <p>■市営プールの老朽化と再編の機会</p> <p>市が運営する運動公園内の屋外プールは、老朽化が進み2025年度の営業休止が決定されたかと思えます。この現実には、運動公園内のスポーツ・レクリエーション機能の一部が維持困難となっていることを示しており、既存施設の再配置や用途転換といった施設全体の最適化の機会と捉えることができます。市営プール機能についても、近隣校等のプール改修と市民開放や民間施設との連携で代替することが可能であり、公共施設再編の基本方針にも沿った対応といえます。</p> <p>■災害時の機能活用可能性</p> <p>笠岡運動公園は広大な敷地を持つため、災害時にはドクターヘリの離着陸、災害対策本部設置、物資集積拠点として機能させることができます。これは防災拠点としての耐震・立地性能に加え、広域生活圏からの集約と災害時の対応拠点としての機能強化に寄与します。</p>	<p>新庁舎の建設地は、「耐震性の早期確保」、「市民の利便性」、「まちづくりとの整合性」、「災害の危険度」の4つの視点から総合的に判断して、現庁舎周辺が望ましいと考えております。</p>
16	P.6～P.17	第4章 新庁舎建設地	<p>災害対策について（構想案第4章関連）</p> <p>原案では災害リスクを立地評価の一要素として掲げていますが、災害対策は立地候補を除外するための根拠ではなく、対策を施しつつ使える立地を評価すべきです。そのため、以下の設計対応を基本計画に組み込むことを提案します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・敷地嵩上げ（盛土）による浸水想定超過設計</li> <li>・可動式防潮堤・排水ポンプ等の水害対策設備</li> <li>・緊急輸送道路・避難誘導の確保計画</li> </ul> <p>これらを併せて検討することで、生活動線上の立地と災害対応の双方を両立できます。</p>	
17	P.6～P.17	第4章 新庁舎建設地	<p>構想案が掲げる課題を尊重しつつ、庁舎は「市民が生活の中で自然に利用する施設」であるべきだという視点を基盤にしています。富岡・番町周辺、特に笠岡運動公園周辺は生活動線・交通アクセス・災害対応のポテンシャルを併せ持つ立地であり、生活圏に根ざした庁舎機能を提供するのにふさわしい候補地です。この立地提案を基本計画策定段階で反映されることを強く要望します。</p>	
18	P.11	(4) ①地震災害	<p>免振構造などによる建物の耐震化、地盤改良などによる液状化への対策事業費は、地方債ですか？一般財源・基金ですか？</p>	<p>国の補助金の対象ではないため、地方債又は一般財源・基金での対応となります。</p>
19	P.13	津波浸水想定図	<p>JR笠岡駅周辺は凡例の色がないので、0.01m以下と判断してよろしいですか。</p>	<p>JR笠岡駅の南北で想定が変わります。 JR笠岡駅北側（市役所側）は、0.01m以下です。 JR笠岡駅南側（海側）は、2.0m未満です。</p>
20	P.14	高潮浸水想定図	<p>市役所付近は1.0～3.0mですが、高潮浸水の対策方法及び費用財源はどのようにお考えですか。</p>	<p>今後の基本計画段階において、具体的に検討してまいります。</p>
21	P.15～16	③緊急輸送道路	<p>液状化への対策（地盤改良）の範囲はどの範囲を考えてますか？施工範囲の工事期間はいつ頃ですか？笠岡市が耐震診断を義務付ける緊急輸送道路（令和6年6月）の診断結果では早急な処置対応はありませんでしたか？</p>	<p>液状化そのものへの直接の対策は困難であり、緊急輸送道路でも液状化対策は行われてはいますが、地震発生時に通行を確保すべき道路として、無電柱化事業等の対策を進めております。また、耐震診断を義務付ける緊急輸送道路において、当該沿道沿いの建築物等については、耐震診断や耐震改修等が定められており、適切な対応を引き続き進めてまいります。</p>
22	P.17	2 建設候補地	<p>現在の位置が第1候補なら、本庁舎、中公、第4、廣井の間を橋上で結べば、職員も市民も往来が容易になると思えます。</p>	
23	P.17	2 建設候補地	<p>場所は現在の場所が利便性が良いが、南海トラフ地震時は被害が想定されている。ほかの場所は思いつきません。</p>	<p>今後の基本計画段階で、具体的に検討を進めてまいります。</p>
24	P.17 P.18	第4章 新庁舎建設地 第5章 新庁舎の規模	<p>・今回の市庁舎建替えは、単に建替えだけでなく、将来の笠岡市を展望させるものにして下さい。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 建設場所・市役所向かい旧笠岡東小学校跡地・貫閣講堂を含む敷地。</li> <li>2. 事前準備・・・当該地の用途容積の見直し。</li> <li>3. 8階建て位の建築が出来るようにする。・延べ床面積・13.5km<sup>2</sup></li> <li>4. 本庁舎・議会・福祉部・まちづくり課・教育委員会の集約整理 ・番町にある、図書館・美術館・市民病院脇の郷土資料館を集約 ・貫閣講堂は、ビルインにする。・・・伝統は守る。 内部は、体育館として使える仕様に。・笠岡小が使用。 *建築に際し笠岡小学校体育館は使えないが、今井小学校体育館を建設期間中は、代替利用する。</li> <li>5. 建設中は、分庁4の課を、本庁・及び分庁舎に、一時的に移転する。</li> <li>6. 分庁舎は、中央公民館機能を集約、子育て市民の集いの場所、会議室として活用。</li> <li>7. 本庁舎・議会棟は解体し、駐車場として活用・分庁4は解体建設用地の一部とする。・・・別紙ご参照</li> </ol> <p>本件により、仮庁舎の建設は不要となりコスト削減が図れる。 *総工費8,241百万円 *集約した施設用地は、全て売却し財産の入替をする。 *本庁舎来訪者駐車場は、新庁舎前、旧庁舎跡、一部2F建（公用車）</p>	<p>新庁舎の建設地は、「耐震性の早期確保」、「市民の利便性」、「まちづくりとの整合性」、「災害の危険度」の4つの視点から総合的に判断して、現庁舎周辺が望ましいと考えております。新庁舎建設の基本方針に沿って、新庁舎建設の最適化を図ってまいります。</p>

笠岡市新庁舎建設基本構想（案）に係るパブリックコメントの結果と笠岡市の考え方について

No.	対象ページ	内 容	ご 意 見	市 の 考 え 方
25	P.18	第5章 新庁舎の規模	<p>現在進められている新庁舎計画について、少子高齢化と人口動態を踏まえた意見を提出します。</p> <p>笠岡市の人口は、国立社会保障・人口問題研究所の推計（2015年国勢調査・人口50,568人）を基に、2045年には31,162人まで減少する見込みが示されています。</p> <p>また、市の人口ビジョン等で引用される「日本創成会議」の試算として、出生率の低下や若者流出などが改善されない場合、2040年に約34,000人、2060年には約22,000人程度まで減少し得る、という見立ても示されています。</p> <p>※本意見で用いる「コンテキスト」とは、市民からの相談内容、過去の対応経緯、判断に至った理由、注意点などを、職員の異動や人手不足が進んでも引き継げる形で蓄積・共有した「業務の背景情報・判断の履歴」を指します。いわば、属人化しがちな行政業務を、組織として継続的に運営するための基盤となる情報です。具体的には、日常業務の中で発生するさまざまな音声によるやり取りを文字に起こし、テキストデータ（マークダウン形式）として後から参照できる形で蓄積していくことを想定しています。</p> <p>これらを踏まえると、笠岡市の人口規模は、今後30年で「現在の半分に近い水準」へ向かう可能性を前提に、行政の設計思想そのものを見直す必要があると考えます。冒頭で述べた人口動態を踏まえると、私たちは今、20年後、30年後の笠岡の姿を真剣に考え、想像しなければならない重要な時期に立っています。</p> <p>現在のまま高齢者人口が膨らみ続ける構造を、十分な備えもないまま下の世代に引き継ぐことは、あまりにも無責任であり、酷な選択だと感じます。</p> <p>現在の人口推計どおりに人口減少と高齢化が進めば、この町の最大の課題は「お金」や「建物」ではなく、人の手と目が足りなくなることです。</p> <p>80歳を超えた高齢者が体調の異変を感じても、救急車を呼ぶほどではない、しかし放っておくのも不安という“グレーな状態”を相談できる先が見つからなくなります。バスは減り、タクシーも来ない。近くに家族もいない。そうした小さな異変が、誰にも気づかれないまま重症化していきます。</p> <p>市役所や医療・福祉の現場でも、人手不足により対応が遅れ、「もう一度来てください」という言葉が、高齢者にとって越えられない壁になります。本来受けられるはずの支援にたどり着けない人が増えていきます。</p> <p>介護や見守りの現場でも、一人の支援者が多くの高齢者を抱え、必要最低限の対応で精一杯になります。「いつもと違う」という小さなサインに気づく時間が失われ、孤立や重症化が進んでいきます。</p> <p>これは誰かの努力不足ではなく、町を支える人の数そのものが足りなくなるという構造的な問題です。このまま何も変えなければ、笠岡市は「困っている人がいても気づく前提に立つならば、新庁舎は将来の人口規模に見合った、よりミニマムなものとし、情報を集め、その情報をAIでコントロールする機能に重きを置くべきだと考えます。</p> <p>あわせて、新庁舎建設に充てられる予算の一部を、AIによる市役所機能の分散化について協議し、設計に取り組むための検討費用へも配分することが重要だと考えます。単に建物を建てるのではなく、「どの機能を、どこまで、どのように分散できるのか」「市内のどの場所に配置すれば、市民の負担を最も軽減できるのか」といった点を丁寧に検討し、設計に落とし込んでいくプロセスそのものが、これからの行政にとって重要な投資になると考えます。</p> <p>AI時代において最も大切なことは、AIそのものを導入すること以上に、データを蓄積し、データを「コンテキスト」として整理・活用していくことです。市内の情報をより多く集め、それを市政に反映する仕組みを整えば、AIは「市民の小さな声も大きな声も、取りこぼさず市政へ届ける」ための強力な道具になり得ます。逆に、コンテキストが乏しければ、どれほどAIの機能が発展しても、十分な効果は期待できません。さらに重要なのは、過去のデータや経験は、後から集めること自体は不可能ではないものの、データ化には膨大な費用と時間がかかるという点です。だからこそ、AIシステムを構築してから着手するのではなく、今この時点からコンテキストの収集を始める必要があります。</p> <p>現段階でも、非エンジニアが「やりたいこと・思っていること」を日本語で入力するだけで、コンテキストを活用した仕組みを構築できる環境が現実になりました。職員が自ら、集めた情報を操作し、集約し、提案し、改善できるようになれば、業務の質と速度は大きく変わります。AIの理解や認知にばらつきがある今だからこそ、派手なシステムを一気に整備するよりも、まず「使えるコンテキスト」を増やすことが合理的だと考えます。</p> <p>たとえば、感染症や災害などの非常時においても、過去の症状、対応、注意喚起の履歴がコンテキストとして残っていれば、次に起こる事態に対して、笠岡市独自の判断と初動対応を取ることができます。これは、「国や県の判断を待つ行政」から、「自ら考え、動ける行政」への転換でもあります。</p> <p>また、業務タスクの扱い方を一定のルールでコンテキスト化すれば、優先順位の見える化や引継ぎの質が向上し、業務効率の改善にもつながります。さらに、連携協定を結ぶ自治体やAI活用に積極的な自治体とコンテキスト共有が進めば、笠岡市の行政判断を支える情報は加速的に増え、より精度の高い市政運営に寄与すると考えます。</p> <p>以上から、新庁舎計画は将来負担を抑えた規模とし、そこで生まれる余力（予算・人手・時間）を、「コンテキスト収集の仕組み」およびAIによる市役所機能分散について協議・設計を進めるための取り組みへ優先的に配分することを提案します。</p> <p>すべてを一度に整えることは難しくとも、コンテキストを集め、次の時代の行政の在り方を構想・設計する取り組みだけは先に走らせることが、人口減少局面において行政の力を最大化し、市職員の皆さんの現場を本当に支える一歩になると考えます。</p>	<p>人口減少・少子高齢化という構造的課題に対し、ハード（庁舎建設）とソフト（情報基盤・業務効率化）の両面から持続可能な行政運営を目指すというご提案は、本市の目指すべき方向性と一致するものと考えております。</p>
26	P.18～P.27	第5章～第7章 規模・構造・建設計画	<p>これらの章は庁舎規模・駐車場などを扱っていますが、立地によって必要な規模や配置・インフラ条件が変わるため、富岡・番町周辺、特に笠岡運動公園周辺の立地を基準に総合設計することが望ましいです。</p>	<p>新庁舎の建設地は、「耐震性の早期確保」、「市民の利便性」、「まちづくりとの整合性」、「災害の危険度」の4つの視点から総合的に判断して、現庁舎周辺が望ましいと考えております。</p>
27	P.18	(2) 規模算定の前提条件	<p>28ページの事業スケジュールでは新庁舎建設完工が7～9年後になっており、人口減少の傾向では、完工時が基本でよいのではないのでしょうか？ 完工時の市民人口を予測し、それに合った規模の庁舎が望ましいのでは？</p>	<p>ご指摘のとおり、本市においても人口減少が進行しており、将来を見据えた適正な庁舎規模の検討は重要な課題であると認識しております。新庁舎の規模につきましては、最終的には今後の基本設計段階で決定いたします。</p>

笠岡市新庁舎建設基本構想（案）に係るパブリックコメントの結果と笠岡市の考え方について

No.	対象ページ	内 容	ご 意 見	市 の 考 え 方
28	P.19	2 新庁舎の規模の算定倉庫（付属面積）	<p>【意見の要旨】</p> <p>○新庁舎建設にあたっては、耐震性や利便性の向上に加え、将来にわたり持続可能な行政運営を支える観点から、文書・記録管理の整理・最適化を設計条件の前提として位置づけるべきである。</p> <p>【意見の内容・理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新庁舎の延床面積は約9,000～12,000㎡が想定されているが、文書管理の見直しを行わずに設計を進めた場合、過去に蓄積された紙文書を前提とした過大な書庫面積が必要となるおそれがある。</li> <li>・一方、保存年限に基づく整理・廃棄や電子化を進めることで、書庫・文書関連スペースを中心に全体の2～5％程度の延床面積削減が見込まれる。これは約200～600㎡に相当し、建設単価を踏まえると約2億円～7億円程度の建設費抑制につながる可能性がある。</li> <li>・あわせて、空調・清掃等の維持管理費や将来の改修費用の抑制といった長期的な効果も期待できる。</li> <li>・よって、設計条件を確定する前段階から文書管理の実態調査と整理を行い、必要最小限の書庫面積を前提とした合理的な新庁舎計画とすることを要望する。</li> </ul>	<p>ご指摘のとおり、保存文書の整理・最適化は設計の前提条件として位置づけるべき課題と認識しております。</p> <p>今後、基本計画策定段階において、具体的に検討してまいります。</p>
29	P.20	(2) 他自治体の事例	他市は岡山県内ですか？市の人口も参考に記載を要望します。	県内、県外両方です。また、人口規模ではなく、延床面積が想定職員数から算定した想定面積に近い市を参考にしています。
30	P.22	(5) 必要駐車・駐輪台数	駐車場205台、駐輪場12台とありますが、面積としてはどの程度の広さになりますか。	駐車場のレイアウトや構造などにより変動しますが、205台であれば約5,100㎡程度の広さになります。
31	P.25	1 概算事業費	お金と言うモノがなかったらどうするのでしょうか。公のモノは自分の汗（税金）です。	新庁舎建設の基本方針に沿って、新庁舎建設の最適化を図ってまいります。
32	P.25	1 概算事業費	建て替え費用は、必要なものは備わっていた方が良いが、極力おさえたい方が良い。	
33	P.25	(1) 概算工事費	現在の段階で、概算工事費は新庁舎本体工事費のみで、他の工事費は不明です。工事を計画する段階で、総工事費を算出し、各分野で知恵を出し合い、別方法を検討したり、予算内で収まるよう十分な準備をして進めていただきたい。新庁舎の概算工事費は55～74億円程度というのも、あまりにも範囲差額が大きすぎます。55億円でも74億円でもよいということですか。	概算工事費につきましては、基本計画段階において、具体的に検討してまいります。また、概算工事費の幅は、現時点では具体的な設計内容が未確定であるため、想定される延床面積の範囲を示したものです。
34	P.25	(1) 概算工事費	<p>他事例や規模による概算工事費が想定されていますが、今後の物価高騰や建設市場の動向（機械設備費等の増加）を見込んだ事業費についても想定しておくべきであると考えます。</p> <p>基本計画の策定に先立ち、サウンディング調査や市場調査を確実に実施し、より現実的で適切な数値を算出し、計画段階から反映させることが望ましいと思います。</p> <p>また、施設規模によって工事費は大きく変動するため、今後の職員数の減少や、流動性の高い諸室への対応、ランニングコストを抑えるコンパクトな構造等を反映した想定事業費に基づき、基本計画を策定することを求めます。</p>	<p>ご指摘のとおり、今後の物価高騰や建設市場の動向を見込んだ事業費の想定は、重要な課題であると認識しております。</p> <p>今後の基本計画段階において、具体的に検討してまいります。</p>
35	P.25	(2) 財源	財源については、官民連携による施設整備を行った場合の財源確保や、候補地の選定段階で既存施設の集約によって生じる既存用地の売却益を庁舎建設の財源に充てることなども検討すべきと考えます。そのため、サウンディング調査による官民連携の可能性の模索や候補地に関する調査を実施し、基本計画策定に至る業務の委託費を多少要したとしても、結果として新庁舎建設事業のトータルコストが抑えられる計画とすることが重要であると考えます。	サウンディング調査による官民連携の可能性の模索や候補地に関する調査の実施につきましては、貴重なご提案として受け止めております。財源につきましては、基本計画段階において、具体的に検討してまいります。
36	P.25	(2) 財源	財源確保のため、市民の暮らしに影響が発生するのでしょうか？	市民の皆様の日常的な行政サービスへの影響が出ないように進めてまいります。
37	P.25～26	(1) 事業手法	事業手法については、設計・施工・運営などの分担において民間活力を最大限に活用することで、効率的かつ低コストな事業実施が可能となると考えます。特に、DBO方式やPFI方式など、従来手法以外の選択肢についても十分に検討すべきです。基本計画の策定に先立ち、サウンディング調査を通じて複数の事業手法の可能性を整理し、その比較・検討結果を踏まえ、最適な事業手法を選定し、基本計画に明確に位置付けていただきたいと考えます。	事業手法につきましては、基本計画段階において、具体的に検討してまいります。
38	P.28	第8章 事業スケジュール	原案通り現在地で建て替える場合、仮設庁舎が必要となるため、工期・費用・職員負担が増大します。一方、新規立地（笠岡運動公園周辺等）であれば、仮設庁舎を建設する必要がなく、工期短縮・費用削減・移転負担の軽減が可能となります。	新庁舎の建設地は、「耐震性の早期確保」、「市民の利便性」、「まちづくりとの整合性」、「災害の危険度」の4つの視点から総合的に判断する必要があり、現庁舎周辺が望ましいと考えております。今後の基本計画段階で、具体的に検討を進めてまいります。
39	P.28	注2 事業内容 ・仮設庁舎建設 ・仮設庁舎解体	現在地で新庁舎を建設する場合は、仮設庁舎建設、仮設庁舎解体の事業費が発生するとあります。現在地以外に建設を計画し、多額な仮設庁舎建設費や仮設庁舎解体費を0円にしましょう。余分な引越越し費用も1回で済みます。2年の工期短縮は、市民の安全面、建設工事費以外も多々メリットがあります。	
40	P.28	第8章 事業スケジュール	事業スケジュールは、現在地か現在地以外かによって整理されていますが、実際には事業手法の選定や発注方式がスケジュールに与える影響が極めて大きいと考えます。事業開始から完成までの期間、各種手続きに要する時間、関係者との調整期間、建設工事における週休2日制の導入などを踏まえると、サウンディング調査による事業手法や市場実態の整理を行わないままスケジュールを確定させることは適切ではないと考えます。サウンディング調査の結果を踏まえ、事業費・財源・事業手法と整合した現実的な段階ごとの事業スケジュールを改めて整理し、基本計画に反映させていただきます。	<p>基本構想は、新庁舎建設の基本的な方向性を示すものであり、現段階では概略的なスケジュールを提示しております。</p> <p>ご指摘いただいた事業手法の選定、サウンディング調査の実施、現実的なスケジュールの策定につきましては、基本計画段階において、具体的に検討してまいります。</p>
41		笠岡市の将来について	<p>新庁舎は、良いと思いますが、物価高で何で財源が無いのに何故今になってやろうと思ってるのでしょうか？</p> <p>市民の為に考えた結果なんのでしょうか？</p> <p>もっと住みやすくした方が良いと思います。</p> <p>そう考えると、最低限の事をした方が良いと思います。</p> <p>新庁舎にお金を掛けて今より財源が良くなるのでしょうか？あと何年で財源が底をつく事を言いましたが、それだけのお金を掛けるのであれば、どうしたら良いのかを考えた方が良いと思います。</p> <p>新庁舎をして笠岡の良い未来が来るのでしょうか？笠岡に住んで心配でなりません。安心して住めるようになって欲しいです。</p> <p>どうしたら住みやすく人口を増やすことができるのか考えて下さい。</p> <p>市長選挙で何を言って市長になったかを考え直して欲しいです。</p>	<p>現本庁舎は昭和31年に建設され、既に築69年が経過しており、施設の老朽化が著しく、また、耐震基準を満たしておらず、低強度コンクリートであるため、建替えも含めた総合的な検討が必要とされています。大規模地震が発生した場合、防災拠点として機能しないばかりか、来庁者や職員等の安全確保もできません。市民の皆様の安全・安心な暮らしを守るためには、できるだけ早期に新庁舎の建設に取り組む必要があると考えています。新庁舎建設の基本方針に沿って、新庁舎建設の最適化を図ってまいります。今後、皆様のご意見もお伺いしながら、基本計画段階でより具体的な検討を進めてまいります。</p>

笠岡市新庁舎建設基本構想（案）に係るパブリックコメントの結果と笠岡市の考え方について

No.	対象ページ	内 容	ご 意 見	市 の 考 え 方
42		反対意見	<p>『新庁舎建設』計画に反対であり、白紙撤回すべきと考えます。</p> <p>栗尾市長は就任してから「お金が無い」を理由にあらゆる計画を見直し、縮小或いは白紙化を図ってきた。市民病院建て替えも白紙化された。これは、市民の我慢にとどまらず、市民の生命すら軽視する愚策である。</p> <p>そんな中、74億円もの巨額な投資をして市役所を建て替えるなど論外である。そんなお金を調達できるなら、市役所より先に21千世帯の市民の家の耐震化補助金に充てるべきである。</p> <p>震災対策本部などプレハブでもテントでもできる話です。</p> <p>市長・議員・職員の働く環境よりも市民の生命を考えなさい！</p>	<p>現本庁舎は昭和31年に建設され、既に築69年が経過しており、施設の老朽化が著しく、また、耐震基準を満たしておらず、低強度コンクリートであるため、建替えも含めた総合的な検討が必要とされています。大規模地震が発生した場合、防災拠点として機能しないばかりか、来庁者や職員等の安全確保もできません。市民の皆様の安全・安心な暮らしを守るためには、できるだけ早期に新庁舎の建設に取り組む必要があると考えています。新庁舎建設の基本方針に沿って、新庁舎建設の最適化を図ってまいります。今後、皆様のご意見もお伺いしながら、基本計画段階でより具体的な検討を進めてまいります。</p>
43		市民意見の収集方法について	<p>基本構想では、市民意見の反映が重要であると記載されていますが、意見収集の具体的な方法やプロセスが示されていません。市民がどのように意見を提供し、それがどのように基本計画に反映されるのかについて、具体的な手順が不明確です。</p> <p>市民意見を収集する方法として、ワークショップ、意見交換会、アンケート調査など、複数の手段を用いて適切に実施するとともに、集めた意見をどのように基本計画へ反映させたのかを公開し、透明性を確保することが必要であると考えます。</p>	<p>市民意見の収集方法としましては、ご指摘のような手段があると認識しております。</p> <p>計画段階から市民の皆様の声を丁寧に反映させることが重要です。透明性の高いプロセスを確保しながら、市民の皆様と共に新庁舎建設を進めてまいります。</p>